

今年も早いもので既に半年が経過してしまいました。

特にカレンダーをめくる時に、この七月の場合「ああ今年も半分過ぎたなあ」ということを痛感するのは、编者一人でしょうか。

昔子供の頃、真夏の一日、唇が紫色に変色するくらいまで田舎の川で仲間らと潜ったりして魚を追いかけて遊んでいた時は、ふと見上げる太陽も東から西にゆつくり流れていてもっと一日が長かったような気がします

会員の皆様におかれては相変わらず日々健勝されているようで、何はさておき北道場のますますの発展と会員相互の愛和を願う今日この頃です。

さて去る七月九日(日)は熊本の本部において第三六

九回有段者交流研修会が正午より公德会道場において引き続き場所を本部に移して砂泊先生の誕生祝賀会が盛大に開催されました。

今回は特に三六九という常々先生が言われる「みろく」すなわち弥勒の精神そのものの回数の研修会でもあり、北海道からも多数の会員が参加しましたが、その様子について浜田道場長から手記を寄稿していただきましたので、紹介させていただきます。

「第三六九回有段者交流研修会」

・平成十八年七月九日有段者交流研修会が行われる。
この日は、台風三号が発生し、当初は九州西域は暴風域に入るコースであったが、幸いにも西側にずれて暴風域からは逃れ、やや湿度は高いものの晴天に。

今日の研修会は、砂泊先生の誕生会でもあり、また、

三六九という偶然もかさなった研修会である。

長崎北海道から浜田・野瀬・村里・古屋・大平・小島の六名が参加する。午前八時半頃雲仙市多以良港に着くと、既に長崎道場・多良見・正龍館の会員が到着しており合流する。後で村里さんが「今日は長崎だけでも十九名にもなる」というように、なるほどその通りの大人数である。

一同フェリーに乗り熊本市内には、十時二十分頃に着く。

研修会会場の公德会には、十一時頃に着き、受付を済ませ、準備体操は各自で行い、十二時過ぎに砂泊先生が来られた。

礼拝後、去る四日に亡くなられた重富道場の永井道場長のご冥福を祈り黙想を先生の合図で参加者全員で行う。

砂泊先生は「永井さんは、

自分の自宅に道場を作ったところに会員を呼んで稽古をしていた、霊肉一体の業をしていたので霊界にいつてもきつといいところにかれたでしょう」という話をされ、稽古に入る。

稽古は、呼吸力から始まりその後体捌という事になった。砂泊先生は、膝の調子が今一つだったのが全員に手を取らせる時には、椅子に座って指導される。

先生が稽古の中で話された印象に残っているのは特に次の通りである。

・ 相手に対して「コンチクショウ」ということ争う気持ちがあつてはいけない。

・ 植芝先生が「この武道は三ヶ月やったら天下無敵になる。」という事を自分が十代の時に一対一で言われた。最初は何のことだったか分からな

ったが、それは天下無敵とは、だれとでも争わない気持ちを持つことである。」ということである。

・ 合気道には宗家は無いということ、一対一で言われた。宗家がないということは大勢の弟子の前で先生は言えないから自分に一対一で言われた。

・ 植芝先生が東京で合気道を広めようとされる前に熊本県八代に来られ、そこで「この武道は火の国からおこる」ということを言われた。このことは私のことを言われたと思う。

以上が心に残っているが、このことはいつも研修会では言われていることであるが、今回あらためて強く印象に残った次第である。そして稽古終了後は、以

前先生の内弟子だった橋本さんから送られてきた合気会の演武のビデオをみる。

その後、本部道場に会場を移して先生の誕生会が行われ、先生の八十三歳の誕生を皆で祝った。鹿児島杉尾さんの乾杯で始まった誕生会は、後半は先生のハーマモニカが出て十二曲程を皆で歌い合い、さらに調子が出てきた先生のハーマモニカの演奏が続き、先生の嬉しい気持ち伝わってきた。お開きまで、出席した全支部員が中座せずに残り、最後は長崎道場の野口さんの一本締めで四時頃盛会のうちに終了した。

帰りは五時半頃のフェリーに乗り、長崎県側に着いてもまだ陽は完全に沈んでおらず、特にこの日は空が澄んでいて、北側に見える多良山系は鮮明に見え、また西側一面の空はオレンジ色に染まり、太陽そのもの

は見えなかったものの久しぶりに見る夕陽に車中の全員が感動した。



本物について

広辞苑によれば本物とは、「にせものでないこと」とか、その名に値する本当のもの。技芸などが素人ばなれしていること。」として掲げられている。

しかし、本物にもせものも、本人の価値観の問題であり、別に他人に迷惑を及ぼさなければどちらだっていいはずであるが、何故、近年「本物」思考が強く言われるようになったのであるのか。

それは、現代は既に科学技術が進化し、もうこれ以

上便利になったところで、たかが知れていることに気づき、逆に、多量のにせものの流出により、人々の生活が脅かされ、そして、人間の幸福は物によって達成できないと感じたからだと思ふ。しかしながら、科学技術が近年進化したからこそ、現在の人々の幸福がある訳であり、昔のような自然の中の環境がよかったといつても、戻れないわけであり、しかも、現代人が昔のような生活は絶対できないのである。

したがって、今をよりよく生きるしかない訳であるが、ここがポイントである。

つまり、科学技術が進化するあまり、人の心が後追いつているのが現状であり、そしてそれが予想もしないような事件事故に発展している。

アニメ作家の手塚治虫によつて出現したあの鉄腕ア

トムは、デジタル化が進んだちよつと今と似ているような時代に登場したと言われるが、しかし、歌にも出てくるように「アトムは最終的には心やさしい子」であるということ、数日前のテレビの人間講座で将棋の米長さんが言っていたのが印象的であった。

また、別の番組では作家の倉本聡さんが「二十歳ぐらいの都会と田舎の若者に対して、「あなたにとって今生きて行くために大切なものは」とアンケートをとったところ、都会の若者はお金、携帯電話、パソコンなどであつて、田舎の若者は水、空気、ナイフなどであつた」という。このことは非常に面白い現象ではあるが、いまの時代の状況を物語っている。

要するに、今自分にとって生きていくための基本とていうものが、何であるかを

まず人は知らなければならぬ。(平成十七年三月三日 浜田 著) 以下次号へ続く

編集後記

今月末には、二ヶ月に一回の昇段・昇級試験がある予定です。対象者の方は日頃の稽古の延長としてさらにしっかり基本の技などを中心におさらいをしておいて下さい。試験に際し不明な点などあれば道場長もしくは副道場長に気軽にお尋ね下さい。

北道場の会員もついに一般三十五名、幼年部十五名と、合計で五十名の大会となりました。しかし単に数の問題だけでなく、指導者一同これまで同様率先して稽古に打ち込んでまいりますのでご協力の程よろしくお願いします。

【夏は暑かと、冬は寒かと そいで良かと・・・クーラーだけに頼らず、こんな気持ちも持って猛暑を乗り切る】